

# ふれあい・コンタクト

円山動物園ボランティア会  
代表世話役 上田 得一

動物と出会い、人と触れ合っ心ときめきをコーディネートするために

## ニュースレター

### <年頭ご挨拶>

#### ボランティア会代表世話役 上田得一

新年あけましておめでとうございます。皆様には希望に溢れた新春を爽やかに迎えの事とお喜び申し上げます。

平成 10 年 10 月に活動を始めたボランティア会も昨年、十周年を迎えました。十年間活動を続けてこられた 1 期生の皆様には改めて感謝と敬意を表します。

また、動物園としては平成 19 年に作成された『動物園基本構想』に基づき、類人猿館・こども動物園のリニューアル、エゾシカ・オオカミ舎の新築オープンがあり、より近くで動物を観ることが出来るようになりました。さらに、キーパーさん達の工夫によるドキドキ体験メニューが数多く展開される等、数々の行事が入園されたお客様に好評を博しました。

今年も『野生動物復帰ゾーン』や『自然体験ゾーン』の整備が計画されています。私達も新たな視点でガイドし、動物の魅力を伝えるとともに、各種行事を通じてお客様に喜んでいただけるボランティア活動をすべく、研鑽に励まなければと考えています。新年度には 7 期生の募集も計画されています。丑年にふさわしく、自分たちの活動を日々反芻しながら少しずつ前進させていきましょう。皆様のご協力をお願い致します。



#### 円山動物園園長 金澤信治

明けましておめでとうございます。昨年夏に『動物園基本構想』を受けた実施計画、『動物園基本計画』を策定し、いよいよ本格的に動物園の再生事業がスタートします。昨年春にエゾシカ・オオカミ舎等 3 施設が完成し一般公開したところ想定どおりの効果をあげています。動物園の役割や動物園がどのように変わろうとしているのか、きっと市民の皆様にも理解され喜んでいただいた賜物ではないかと思えます。

今年は、北海道の野生復元プロジェクトの準備が整い、円山動物園の存在意義を高め、特徴づけて際立たせる事業等々が本格化します。そして『わたしの動物園』の実現をめざして、数多くの市民ボランティアが参画してきます。このため色々なソフト事業も今まで以上に活発に動き出すことでしょう。

いまやボランティア会も総勢 100 人を超える市内でも有数のボランティアとして、動物園になくはならない存在に成長してきました。ボランティア会がこれからも発展し市民参加のモデルとしての役割を担えるようになることを祈念しております。



### <アニマルファミリー『ホッキョクグマ・ララ誕生会』>

10 月 26 日『ララ・ファミリーによる誕生会』が行われました。本来 11 月 20 日で 14 歳ですが出産準備の為、前倒しになりました。『ララ』懐妊の関心が高まる中、金澤園長の謝辞に続き、飼育員のトークセミナーでは、釧路と帯広の動物園にいる『ツヨシ』と『ピリカ』の生まれた頃の愛くるしい映像を観て、一同、第 3 子誕生の期待がますます膨らみました。河西飼育員は「今回も大きな期待が寄せられていますが、こればかりは僕が産むわけではないですから・・・」と少し困惑しながらも、この繊細で危機的な絶滅危惧種の 3 回目の繁殖への熱き想いを語りました。最後に、オレンジの浮き玉に「ララ祝誕生！メッセージ」を寄せ書きし、ファミリーの持ち寄ったリンゴと共にプレゼントしました。「HAPPY BIRTHDAY TO ララ」（世界のクマ班 小松久恭）



### <アメリカの動物園を回って来ました> (その 2 - オレゴン Wildlife Safari)

ポートランド市から車で 3 時間程。それでも行く価値があると口を揃えて言われ期待して行ったが・・・。広い土地を車で回り始めた。ライオン・トラ・チーター等の肉食獣はオリに入っている上、車からは遠くて良く見えない。(秋吉台サファリランドに行った時は、彼らの生活圏に我々がお邪魔すると云う、迫力と緊張感があったが・・・) キリン・アフリカゾウは上半身しか見えない。良かったのはバッファローの一番大きいオスがゆっくりと車の前を横切った事と、ダチョウのオスが車と並んで歩き、その顔が何か言いたそうで可笑しかった事です。フタコブラクダに乗るのは 7 ドル。初めてなので歩きたび筋肉の盛り上がり感触「重くてゴメンね！」と言いつつ続けた。(類人猿班 カフマン弘美)



## <『コモドオオカゲ』がペアでやって来た！>

11月1日、コモドオオカゲの来園記念セレモニーが行われました。爬虫類館前でのテーブルカット後、待ちかねたお客様が展示室の前で『コモドオオカゲ』に感嘆の声をあげました。インドネシアのタマン・サファリから随行した飼育員（ユリウス）さんと本田飼育員の解説に多くの質問も出されました。『コモドオオカゲ』はインドネシアの島々に約5千頭生息、最大で体長3m 体重160kgにもなり、時速18kmで走り4km先の匂いが判り、寿命は50年前後だそうです。円山動物園では週に一回ラット、ウズラ、馬肉、鶏等の餌を与えるそうです。『コナン』（オス6歳 228cm 54.5kg）と『コニ』（メス6歳 180cm 23kg）の2頭は、動物園生まれなので性格は穏やかですが恐竜を思わせる様な雰囲気を持ち合わせています。国外へ出ることは極めて異例で日本では円山動物園だけの展示ですので、多くの市民の皆様に見に来て頂きたいと思えます。一年間の期限付きでお借りしていますが、是非2世の誕生が望まれます。



(は虫類班 中島香代子)

## <動物特集ウィーク『ユキヒョウ特集』開催される>

10月18日、熱帯動物館内で『ユキヒョウ特集』セミナーが実施され沢山のお客様が参加されました。園の上野係長から「ユキヒョウは美しい毛皮や漢方薬を目的とした乱獲等により、絶滅危惧種の指定を受け、現在はヒマラヤ山脈に3千～6千頭が20～40Km<sup>2</sup>を行動範囲として餌を獲っている。希少動物なので繁殖を第一の目的として飼育している。」等の説明を受けました。田岡飼育員からは〇×式クイズが出されて、お客様が楽しそうに挑戦していました。



クイズは「ユキヒョウの足の毛は無い(×)・足の裏は他の動物より大きくで雪に沈みにくい(○)・ジャンプ力は15m位もあり木登りも出来る(×)・国内での飼育数は30頭より多い(×)(14施設で27頭)・名前の由来は雪の多い地方に住んでいるから(○)」等でした。優しく人懐こい『アクバル』(H17/6多摩動物園生)と強気でおてんばの『リーベ』(H15/5ポーランド生)が円山動物園で出会いましたが、1月～2月の10日弱の短い繁殖期間に初めての同居があるかもしれません。2頭の間でどんな可愛い子供が生まれるのでしょうか？皆で首を長くして待つことにしましょう。

(熱帯動物班 水戸久仁子)

## <今年も大成功＝ハロウィーン>

今年の『ハロウィーン』は、まず春のジャンボ南瓜の苗作りから始め、かかし作り、収穫した南瓜のランタン製作と準備を進め、10月18日に本番が行われました。ワラを使った作業服姿の釣人は、海獣舎のアザラシの岩場へ。名彫刻家達？に加工された20個近くのランタンは、大小組み合わせたアイディア作品や子供に人気のアンパンマン等々、細かい手先の器用さが光る作品に出来上がり、夫々動物舎の前や館内でお客様を迎えました。類人猿館の前では、子供達へのフェイスペイント、動物のぬり絵、お菓子が当たるクイズやジャンボ南瓜の重量当てクイズ等があり、見事適中のお客様に記念品が贈られました。子供動物園では、お客様が魔法使いに変装、ジャンボ南瓜と記念撮影するコーナーも人気がありました。また、海賊、白雪姫、医者、ドラキュラ、フランケンシュタイン等に仮装したボランティアと一緒に写真撮影も好評で、今年も楽しく一日を過ごす事が出来大成功でした。皆さん本当にお疲れ様でした。



(類人猿班 伊藤 剛)

## <『木の実で小鳥の巣作り』(円山動物園芸術祭イベント)>



10月19日、熱帯動物館前で木の枝やドングリなどを使った工作『木の実で作るかわいい小鳥の巣』を行いました。まず、好きな木の土台、枝を選ぶところから始めますが、木の実などを付ける位置を真剣に考えて小鳥の巣づくりをしている子供の姿はとても楽しそうでした。子供に付き添って来ている筈の保護者も一緒に作っている内にどんどん真剣になり子供よりも頑張っていて作ってしまう方もいました。テーブルやポンドの数に限りがあり順番待ちもありましたが、用意した200人分は予定よりも早くなくなりました。真剣に作業をする子供の『こだわり』はきりがなく続き、次の人になかなか回らない事が気がかりでした。それでも一生懸命に作った作品は個性豊かで面白く、嬉しそうに袋に入れ持ち帰る姿は見ていて微笑ましくこちらも嬉しくなりました。お客様を待たせてしまった事などの反省点を来年に活かして、次回をもっと楽しくしたいと思いました。協力して下さい皆様有り難うございました。

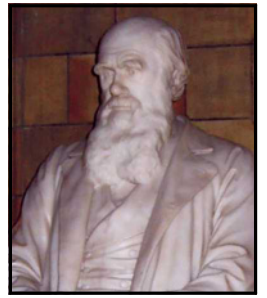
(は虫類班 宮村麻未)

## <サル山の動静＝ニューリーダーは誰だ？＝>

サル山にも白い季節がやってきました。次郎長ジュニアが亡くなって早いもので一年。その後ニューリーダー争いはどうなったのか？ジュニアがまだ元気な頃のNO.2は『こう太』、NO.3は『中松』で、このまますんなりと跡目相続かと思われていたが、そう簡単に決まらないのがサルの世界。この夏頃から『中松』を意識した行動が『こう太』に見られるようになりました。目を合わそうとしない。すんなりと道を空け見送る場面等が多くなってきたのです。しかもメスザル達から『中松』が『こう太』以上に信頼を受ける光景が随所に見られるとの事(飼育員さんの話)。これがリーダーになれる一番の条件らしい。『中松』が年長者と云う事もあって、ニューリーダー確定は間違いなしと思われるサル山の近況です。いずれにしても91頭の仲間が仲良く元気で、来園のお客様に楽しさを提供し喜ばれることを祈りたいものです。(当時NO.4だった『さえ太』は、リーダー争いは関係ないと早々に離脱しました) (サル山班 渡邊勝利)







地球が生まれたのは今から46億年前、熱い火の玉は冷えて海ができ、その中から生命が誕生しました。その長い地球の歴史の中でさまざまな生物が現れました。現存する生物は命名されているものだけで約150万種あり、哺乳類は約4300種あると言われています。キリスト教世界では、「神がこれらの生物を個々に創造した」と教えられていましたが、1858年にイギリスのチャールズ・ダーウィンがこれに逆らう説“進化論”を発表しました。「生物は共通の祖先からそれぞれの環境に対応して進化し、最も環境に適応したものが生き残って(自然選択されて)、繁殖する」ことができるという説です。その後の研究によれば、単細胞生物から始まってミジンコ、クラゲ、ウニ、昆虫などの無脊椎動物、そして魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類を含む脊椎動物が時代を追って現れたのです。多くのものは絶滅し、あるものは生き残っています。アンモナイトや恐竜が絶滅動物の代表です。神様はどうしてこんなに多くの動物を造っておきながら、あるものは生かし、あるものは絶滅させてしまったのか、凡人でも不思議に思います。18世紀後半からヨーロッパの人々も疑問に感じ始めたのは当然でしょう。昆虫館を除いた円山動物園にいる動物たちの中ではサンショウウオとカエルが一番古くて、次は爬虫類館の面々でしょうか。スローロリス、ワオキツネザル、ニホンザル、リスザル、類人猿などサルの中の歴史と分布も多くを物語ってくれます。いずれにしてもヒトが最も新参者ですね。そんな見方で園内を歩くのも面白いかもしれません。

さて、船長の話相手としてイギリスの軍艦ビーグル号に乗船した22歳のダーウィンは、南アメリカで絶滅動物の化石を掘り出し、火山の爆発を目撃し、生物の多様性や変化する地球を実感します。次に訪れたガラパゴス諸島では鳥のクチバシが島ごとに異なることに注目しました。こうして5年間の世界一周航海を終えて1836年に帰国し、持ち帰った資料の整理をしながら、“神の創造”というキリスト教の教えに向き合いました。生物の多様性や絶滅をなんとか科学的に説明しようと進化論を模索していたダーウィンですが、ことの重大性を考え、証拠を十分に集めようと自説の発表を躊躇していました。そんなダーウィンはときどきロンドン動物園を訪れていました。1828年に開園されたロンドン動物園は地下鉄を降りて徒歩15分くらいのところにあり、ちょうど円山動物園くらいの規模の“町の動物園”です。いくつかの古い獣舎をまだ利用しているところや、ゾウがいないところも同じです。ロンドン動物学協会が経営しているので入場料が約2500円と高めですが、親子連れでにぎわっています。ドキドキ体験のようなイベントもあり、芝生に座ったお客さんも参加する猛禽のフリーフライトと、ゴム製の偽ヘビを咥えて地面にたたきつける鳥の名演技はユーモアたっぷりの解説とともに大喝采でした。ボランティアがたくさん活動しているところも円山と似ています。曜日毎のシフト制が敷かれ、退職後の男女や若い女性もいました。ちなみに、ゾウはロンドン動物園分園(ロンドンから車で北に1時間ほど)で広々と群れで暮らしています。

ダーウィンがイギリス中部の町シュルーズベリーで生まれたのが1809年ですから、今年はダーウィン生誕200年にあたります。これを記念して大がかりなダーウィン生誕200年記念展示がロンドン自然史博物館で開かれます。シュルーズベリーのダーウィン博物館も1年間かけて改装し、特別展に備えています。ダーウィンは“イギリス人の誇り”ともいえます。興味のある方はこれを機にイギリス動物園観光旅行はいかがでしょう。チェスター動物園にはコモドドラゴン館もあります。(こども動物班 米山輝子)

### <平川動物公園(鹿児島市)の旅>



は虫類斑の有志6名で11月半ば鹿児島県を巡って来ました。屋久島では健康そうでおだやかなヤクシマザルやヤクシカに間近に会えました。鹿児島市では1916年に開設の日本で4番目に歴史のある市立平川動物公園に行きました。31万平米という敷地に140種1000点が飼育されている大きな動物園です。正面のメインゲートをくぐると、突然、桜島と錦江湾の大パノラマをバックにアフリカ園の眺望が広がり、キリン、サイ、シマウマ、ダチョウなどの群れが目に入ります。自然の丘陵や川を生かした園内を歩くと各所に(無柵放養式)の動物舎があり親しみやすく動物に会えます。特徴的なのはオス2頭、メス8頭と日本で最も多いコアラ達や、ラマが10数頭、カピバラやマウラが各20頭位等々、一種類で多頭数の動物が飼育されていることです。その他、マントヒヒとバーバリーシープが仲良く同居している等、短い紙面では紹介しきれないほど見所いっぱい、景色抜群の動物園でした。皆さんも機会を見つけて是非行ってみて下さい。(は虫類斑 足立龍信)

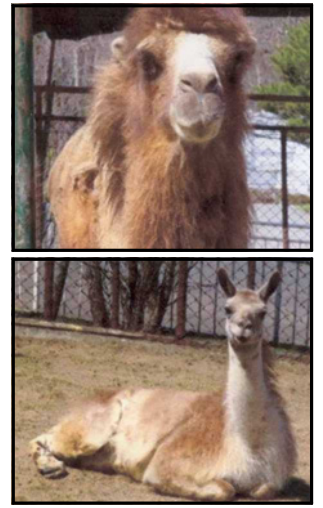
### <動物特集ウィーク『ダイアナモンキー』>

10月18～26日、『月の女神・ダイアナモンキー特集』が開催され、週末には飼育員の佐藤さんによる動物解説やクイズ等のイベントがあり大勢のお客様が参加しました。クイズに正解の子供達は、はにかみながらも得意そうに記念品を受け取り、とっても嬉しそうにしていたのが印象的でした。モンキーハウスでは特徴を紹介のパネル展示や、蔦の葉やペイントの賑やかな装飾でダイアナたちをPRしていました。(中には、葉っぱが邪魔で見づらい…との声もありましたが)お客様がダイアナの名前の由来を知り「ほんとに三日月模様になってる！」との声や、毛繕いにうっとりの子をじっくり眺めては「キレイな毛並みだねえ」と夫々興味深く観察していました。又、大人のダイアナモンキーは自己アピールと言わんばかりの果てしない追いかけっこで跳躍力を披露。サル達のジャンプ力と上手な逃げっぷりに驚嘆の声も上がりました。私自身も改めてダイアナモンキーの魅力に引き込まれた一日でした。(類人猿班 木目沢麻美)



## ＜フタコブラクダ『マサコ』とラマ『ポコ』が九州にお嫁入り＞

長い睫毛の優しい目と巨体で皆に愛されていた『マサコ』と、時に子ラクダと間違えられた仲好し『ポコ』が九州は熊本市動植物園にお嫁入りする事が決まり、11月3日にお別れ会が行われました。不安定な空模様ながらも明るい日差しの中、いよいよ開会。と、その時、急に突風と雨!!「行きたくないよう～！皆と別れるのは厭だよう～！」と空が代弁したのかの様。やがて落ち着き、金沢園長の送る言葉、福田さん(クマ班)のボランティア代表の挨拶後、大勢のファンから人参や菜っ葉を直接食べさせてもらって、すっかり気持ち良く旅立つ気になったようでした。マサコよ！新郎『クロベ』君に愛されて、早く可愛い元気なベビーを産んで下さい。そして貴女自身かベビーが又ここへ戻って来られる事を皆で祈っています。『ポコ』も仲間達と暮らすと言う事ですから、いつまでも元気で、そして今まで以上に幸せになって下さい。(世界のクマ班 山川泰弘)

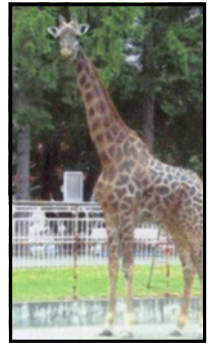


## ＜レッサーパンダ『ココ』感謝イベントに参加して＞



初めての参加ですが、とても楽しみに12月7日科学館に行きました。早速、飼育員の川野さんのお話があり、最近の『ココ』はとても活発に動くようになり円山の2回目の冬を楽しんでいるそうです。チラチラ降ってくる雪に立ち上がったたり飛びついたりしているそうです。時々『ココ』と『セイタ』はチュルチュルと云う鳥の鳴き声のような声を出すそうで、これを聞いた人はラッキーだそうです。さて、案内された『ココ』の部屋には既に産箱が2個、向きや深さを変えて用意してありました。「その時になったら本人？がどちらかを選ぶでしょう」との事。周囲は準備万端。「あとは可愛い赤ちゃんを・・・！」との雰囲気を感じました。抽選で選ばれた人がリンゴを差し出すと『セイタ』を押しつけて手を伸ばす姿を見ていると「まだまだかな？」なんて思いましたが、いつかきっと皆を楽しませてくれる日が来ると信じてますよ『ココ』。皆さんもファミリーになってイベントに参加してみませんか？飼育員さんとお話でき、こちらの要望にも出来る限り沿うようにしたいと頑張っている川野さんを応援しませんか？とても楽しい時間でした。(こども動物班 岩倉厚子)

## ＝投函コーナー＝



- \* **ドキドキ体験を体験** \* 今日は家族と来園。お客さんと一緒に『カンガルーのお散歩』の感激を共有しました。お客さんの立場で見ると、ボランティアの活動している姿がとても新鮮に感じました。(こども動物班 一條加寿枝)
- \* **おめでとう!** \* 10/28 チンパンジーのチャコが元気な男の子を出産しました。これでトニーの一家は10人家族となりました。2009年はますます賑やかな年になりそうです。(サル山班 田中一江)
- \* **クマ班勉強会** \* 9/21、海獣についての勉強会を飼育員の土佐さんをお願いして行いました。トドやアザラシの特徴等、興味深いお話を有り難うございました。他班の方も含め30人を超える参加があり有意義でした。(世界のクマ班 山川泰弘)
- \* **悲しみ** \* 11/2 キリンの『たかよ』が亡くなりました。28歳で国内最高の高齢出産を成し遂げ、いつも優しい眼差しの良妻賢母で30歳6ヵ月の天寿をまっとうしました。沢山の感動をありがとう、そして安らかに。合掌。(熱帯動物班 水戸久仁子)

## 編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は多くの投稿を頂き有り難うございました。厚くお礼申し上げます。又、ニューステーターが第38号(前号)から円山動物園のホームページにも掲載されることになり嬉しい限りです。今年も心を新たに楽しく活動していきたいと思っておりますので、引き続き皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。(次号の原稿締め切りは4/10です)

編集スタッフ：多田孝男 小熊 瞳 大地 淳 紺野仁一 山川泰弘 田中茂雄 西川明子 藤田叶子 田中一江  
 星原恵子 水戸久仁子 伊藤 剛  
 編集責任者：丹野健治 (TEL/FAX 011-232-8151) 佐藤正俊